

# 未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子!

～考え動き 人とつながり 挑戦し続ける子～

## 人権について考える（人権参観日）

本校では、毎年、十月に人権参観日を行っています。今年も、学年に応じた教材を使って、全校生が人権について考えました。子どもたちは、授業だけで人権を学んでいるのではなく、日々の生活の中で、相手を思いやることや感謝の気持ちを持つことなどを学んでいます。保護者の方々に、子どもたちの学習の様子を見ていただき、ご家庭でも人権について一緒に考えていただく機会にしています。

人権とは「すべての人が生まれながらもち、自由で平等に生きていくための権利」です。「健康で安全な生活がしたい」「自分の思いをはっきり伝えたい」「目標や夢に向かって進みたい。」など、だれもが願っています。人権を尊重し、守るためには、自分と周りの人々がたがいに思いやり、よりよい人間関係を築いていくことが大切です。本校でも、下記のような子どもの育成を目指して取り組んでいます。

一年生は「となりのたぬき」という物語で学習しました。うさぎはとなりのたぬきがいじわるだ

### 北小学校人権教育【めざす子ども像】

1. 身近にある様々な人権問題について、自分なりの課題をもって、生活の中で解決しようとする子ども
2. 様々な人との関わりの中で、お互いに尊重し、ともにより良く生きようとする子ども
3. 学び方やものの見方・考え方を身につけられる子ども

からだいきりいでした。たぬきをやっつけてくれるようにお月さまに頼みます。お月さまは、うさぎに「か月間たぬきに親切にすることを条件にしてたぬきをやっつける約束をしました。すると、意地悪だと思っていたたぬきはとても優しいことが分かります。そして、うさぎはお月さまにたぬきをやっつけないでとお願するといってお話です。

授業の最後には、子どもたちは、うさぎになつてお月さまをお願いしています。「たぬきをやっつけないで、だつたたぬきはやさしいから」「わたしがまちがっていたから。」など自分なりの言葉でお月さまにお願いしていました。決めつけで判断すること



1年生の授業の様子

とのおかしさや自分が変わることで、周りの友だちも優しくなることが分かったようです。何よりも、授業を通して、懸命に考え、相手や周りのみんなが良くなる方法を自分の言葉で伝えられたことも学びです。一年生の例を紹介しましたが、どの学年も、真剣に学習に向き合い、考え合う姿が見られました。

「人権とは空気のようなもの」とふれあい教室開級式で、講師の先生が言われました。子どもたちの人権感覚が空気のように当たり前になり、北小学校がいつまでも温かく安心できる学校であり続けたいと願っています。「ご家庭でも、空気のように自然に人権について、いつも話ができればいいなと思います。」

## 目標の見直しで自分を知る

子どもたちには、目標を持つこと、目標に向かってがんばることを四月に話しました。そして、職員室前には、全校生の目標を掲げています。

ところが、目標を決めて、がんばっていても、その時だけで終わってしまうことが多いです。一年の折り返し地点となり、目標を達成できたかどうかの振り返りを行い、目標を見直す取組をしています。それは、自分の事を振り返る力を付けて欲しいからです。できることとできていないことを自己分析し、できていないことは、もっとこうしたいと思つてがんばることが、一人ひとりの成長につながると思えます。目標の振り返りは、シールで行っています。

- 達成できた人 【金色シール】
- 継続する人 【青色シール】
- 目標を変更する人 【オレンジシール】

「字を正しいに書く」という目標が達成できた人は、「ノートをきれいにする」という目標にレベルアップしていました。低学年は、「きょうしよくをはやくたべる」「そうじをがんばる」「本をたくさん読む」など、金色シールが貼られています。この半年の成長を自覚しています。また、高学年は、一年間を見通した目標を立て、継続する人が多かったことも納得できました。残りの半年も目標が達成できるように、個々の目標ですが、全校生で頑張っていきたいと思えます。



目標を振り返る子どもたち